

特別支援教育ほっと通信

「教室環境を整えましょう!」シリーズ
～ユニバーサルデザイン(UD)の視点から～
第3弾「刺激量の調整」

令和2年10月
西部教育局

教室環境が
乱れていると...

日々の生活が
乱れてくる

子どもたちの
心が
荒れてくる

学習に集中
しにくくなる

こうならないためには...

「刺激量の調整」を徹底しましょう!

現時点でできているか(意識しているか)、□に
チェック(✓)してみましょう。



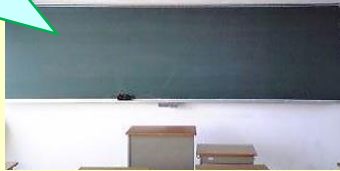
「場の構造化」、「時間の構造化」に
ついて、改めて確認してみましょう。



具体的には...「視覚情報」、「聴覚情報」の量を調整すること。

【目からの刺激を減らしましょう】

黒板の隅に手紙を貼ったり、
メモを書いたりしていませんか?



教室の前面はスッキリさせる!

【ポイント】

□黒板は、その時間の授業のことだけに使う。

【耳からの刺激を減らしましょう】

音が音を呼び、騒がしい
教室環境を生み出すことに
つながります。



教室の音は、徹底的に減らす!

【ポイント】

- 「黙って作業の時間」を設定する。
- 「穏やかで緩急のある話し方」を意識する。
- 非言語・視覚支援を効果的に活用する。
(アイコンタクト、表情、ジェスチャー、
視覚教材の提示 等)

「刺激量の調整」と合わせて、
「伝え方」にも気を付けましょう!



「～しながら」はやめる!

【ポイント】

- 「読むとき」「聞くとき」「話すとき」「書くとき」
を、明確に分ける。
- 子供たちに顔と体を向け、視線を合わせて
から話す。

その時間に必要がない情報などが
黒板に書かれていると、集中すること、
思考することを妨げます。

コミュニケーションで伝わる内容は、
言語的内容は30%、非言語的内容が70%
と言われています。
(参考：生徒指導提要 平成22年3月 文部科学省)

子供たちの目線で様々な環境を確認し、
「よりよい行動モデル」になりましょう!

全教室で意識しましょう!